

2018年度 事業報告書

自 2018年 4月 1日

至 2019年 3月31日

公益財団法人 日本感染症医薬品協会

I. 公益事業

1. 普及啓発

(1) 機関誌及び刊行物

① The Journal of Antibiotics

Vol.71 No.4～12 及び Vol.72 No.1～3 を毎月 27 日に発行した(総論文数 119 編、820 頁)。

また、2018 年 6 月 9 日に第 62 回国際編集会議 (Atlanta)、そして 2018 年 7 月 12 日に本協会会議室にて、国内編集会議を開催した。

② The Japanese Journal of Antibiotics

Vol.71 No.2～6 を偶数月の 25 日に発行し、Vol.72 No.1 を 3 月 25 日に発行した (総論文数 28 編、404 頁)。また、電子ジャーナルとして本協会ホームページに公開した。

そして、2019 年 2 月 18 日に編集委員会を開催。その他、2 回のメールカンファレンスを開催した。

③ 「マクロライド新作用研究会」記録集の刊行

The Japanese Journal of Antibiotics Vol.72 Suppl. A として「マクロライド新作用研究会」記録集 (2019 年 3 月 31 日発行) を発行した。

(2) 講演会

① 記念講演

1) 住木・梅澤記念賞の受賞記念講演

2018 年 11 月 8 日 [学士会館]

受賞者：五十嵐 雅之 (公益財団法人微生物化学研究会 微生物化学研究所

第 2 生物活性研究部)

受賞講演1：「多剤耐性菌に有効な新規抗生物質の探索」

受賞者：木村 賢一 (岩手大学農学部 応用生物化学科)

受賞講演2：「遺伝子変異酵母株と新たな天然資源を用いた生理活性物質の探索研究」

2) 日本感染症医薬品協会奨励賞の受賞記念講演

2018 年 11 月 8 日 [学士会館]

受賞者：並川 浩己 (大阪市立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学)

受賞講演：「難治性 Hypermucoviscous *Klebsiella pneumoniae* 感染症に対するリファンピシリンによる病原性抑制療法の確立に向けた基礎・応用研究」

② メディカル・サイエンス セミナー（薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン）

1) 2018年7月3日 [主婦会館プラザエフ]

講師：平井 敬二（杏林製薬株式会社）

講演1：「新規抗微生物薬を取り巻く R&D の状況

＝研究開発を促進するインセンティブの話題を含む＝

講師：藤江 昭彦（国立研究開発法人日本医療研究開発機構 創薬戦略部

創薬企画・評価課 東日本統括グループ）

講演2：「AMED のアカデミア発シーズの創薬研究支援のシステムおよび、AMED
採択研究の現状について」

2) 2018年11月8日 [学士会館]

講師：木所 稔（国立感染症研究所 ウイルス第三部 第三室）

特別講演：「おたふくかぜワクチンの定期接種化に向けた課題」

3) 2019年1月29日 [学士会館]

講師：青木 洋介（佐賀大学 医学部 国際医療学講座 臨床感染症学分野／
附属病院感染制御部）

講演1：「医師の抗菌薬処方行動の背景：What Doctors See and How Doctors Think」

講師：大曲 貴夫（国立国際医療研究センター病院／国際感染症センター）

講演2：「AMR 対策の世界状況および抗菌薬開発等を含めた国際協力の在り方」

③ 耐性菌対策事業

2018年7月3日、11月8日と2019年1月29日に開催されたメディカル・サイエンス
セミナーで、耐性菌のテーマの講演を行った。

④ 出張講演

1) 2018年9月21日 [神奈川県・国際親善総合病院]

講師：瀧永 博之（国際研究開発法人国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発
センター）

演題：「HIV 診療の現状と針刺し対応」

2) 2019年2月16日 [東京都：豊葉の杜学園]

講師：林 泉（医療法人社団埴原会 赤羽病院）

演題：「意外とちゃんと知らない！身近にある感染症」

(3) 行政機関及び内外の諸団体との連絡、協力及び交流

① 行政機関との連絡及び協力

1) 厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課

薬剤耐性対策の一環として、貴重で重要な薬剤の適正使用に努めるため組織された「バンコマイシン研究会」が2018年11月15日に、「リネゾリド研究会」が2018年12月19日に開催され、担当官が出席した。

2) 厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬安全対策課

医薬品審査管理課担当官とともに、2018年11月15日に開催された「バンコマイシン研究会」、2018年12月19日に開催された「リネゾリド研究会」に担当官が出席した。

② 内外の諸団体との共催、後援、連絡、協力及び交流

1) 第29回新薬創製談話会「新薬創製を再考する～そのヒントを求めて～」

2018年7月9～10日

[ラフォーレ修善寺]

2) 第25回マクロライド新作用研究会

2018年7月6～7日

[家の光会館]

3) 第34回トラベラーズワクチンフォーラム研修会

2018年9月15日

[国立国際医療研究センター]

第35回トラベラーズワクチンフォーラム研修会

2019年3月9日

[国立国際医療研究センター]

4) 日本化学療法学会／日本感染症学会

第66回日本化学療法学会総会／第92回日本感染症学会総会・学術講演会

2018年5月31日～6月2日

[岡山コンベンションセンター他]

第65回日本化学療法学会東日本支部総会/第67回日本感染症学会東日本地方会学術集会

2018年10月24日～26日

[東京ドームホテル]

5) 日本環境感染学会

第34回日本環境感染学会総会・学術集会

2019年2月22～23日

[神戸国際展示場他]

6) 日本放線菌学会

第33回日本放線菌学会大会

2018年9月11～12日

[武蔵野大学有明キャンパス]

2. 研究助成及び表彰

(1) 住木・梅澤記念賞

住木・梅澤記念賞選考委員会が、2018年7月25日、本協会会議室において開催され、公益財団法人微生物化学研究会 微生物化学研究所 第2生物活性研究部 五十嵐 雅之氏と岩手大学農学部 応用生物化学科 木村 賢一氏が選考された。

(2) 奨励賞

日本感染症医薬品協会奨励賞選考委員会が、2018年7月20日、本協会会議室において開催され、大阪市立大学大学院医学研究科 臨床感染制御学 並川 浩己氏が選考された。

(3) 2018 JA Ōmura Award (旧 JA Medal)

2018 JA Ōmura Award の投票が行なわれ、次の論文が確定した。メダルと賞状の授与は2019年度に行なわれる。選考対象論文：Vol. 68 (2015) – 70 (2017)

Review article

受賞者：Evan Martens

受賞論文：The antibiotic resistance crisis, with a focus on the United States [Vol.70, No.5, pp.520-526, (2017)]

Original article

受賞者：Yuuki Yamada

受賞論文：Novel terpenes generated by heterologous expression of bacterial terpene synthase genes in an engineered *Streptomyces* host [Vol.68, No.6, pp.385-394, (2015)]

II. 共益事業

1. 月曜会

特別会員幹事会である月曜会が、2018年7月31日、10月11日、12月13日に、本協会会議室において開催された。また、メディカル・サイエンス セミナー開催について、開催日程、講演内容、講師について、検討を行った。

特別会員会費について、現在、入会の勧誘を行っていることが報告され、入会が一段落してから、会費見直しの検討を行う予定であることが説明された。各社予算立案の都合があるため、見直しのスケジュールを示して欲しいと要望があり、来年度から検討を始めると知らせた。特別会員会社の合併等のケースがあるが、見直しの検討作業時期を引き延ばさないで欲しいと要望された。また、進捗状況は、定期的に月曜会に報告することとした。金額の増減についての質問があり、企業によっては、現状より上がることもあると回答した。

2. 抗微生物薬等審査報告書データベース作成分科会

抗微生物薬等審査報告書データベース作成分科会は、各委員が審査報告書からデータを作成後、データ全体の整合性を図るため、10月2日に Skype meeting を行った。DBに入力するデータは従前通り、「機構は・・・と判断した」「機構は・・・考える」といった照会事項・指示事項のみに限定することとした。データ修正は、大江委員と地曳委員で行い、Ver.2 システム（抗菌薬以外の

抗微生物薬データも格納することが出来、検索と表示が可能)の構築については、佐々木委員が担当し、年度内に完成させた。

3. バンコマイシン研究会

バンコマイシン研究会が、2018年11月15日に、本協会会議室において開催され、耐性菌報告、販売数量報告が行われた。

その後、統一プロトコール感受性調査第4回結果報告が、行われた。散剤ワーキンググループは、武田テバファーマ株式会社が、発表を行い、注射剤ワーキンググループは、サンド株式会社が発表を行った。散剤、注射剤とも、第1回～第4回までの統一プロトコールによる合同感受性サーベイランスの結果をリーフレットにして、医療機関へ情報提供することとした。

厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課 担当官より、バンコマイシンについては、他の抗菌剤とは扱いが異なると認識している。今回、耐性菌がなかったという発表でしたが、今後も適正使用に努めていただきたいと話があった。

厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬安全対策課 担当官より、合同感受性サーベイランスを継続されていることに感謝申し上げますと謝辞が述べられた。AMR対策の活動が世界で活発な状況で、日本でもAMRアクションプランが作成され、抗微生物適正使用の手引きも柱としてあり、今年3月にVCM散剤も含め抗微生物薬系の使用上の注意の改訂があったことが報告され、耐性菌の発現状況は、各社単独で出来るものではないので、協会の下、企業が一丸となり、情報収集していただき、適正使用を推進してもらいたいと講評があった。

4. リネゾリド研究会

リネゾリド研究会が、2018年12月19日に本協会会議室において開催され、第2回VRE感受性測定の結果報告が、3学会合同抗菌薬感受性サーベイランス実務委員会 松本哲哉 委員長から、行われた。また、第2回MRSA感受性測定の結果報告が、幹事会社 ファイザー株式会社から、行われた。引き続き、リネゾリド製剤の出荷量が報告され、文献報告による海外での感受性の状況が(リネゾリドが対象となっている海外の主なサーベイランス)について、報告された。

その後、二木芳人 会長より、リネゾリドに対する耐性について、2011年の論文を使い耐性遺伝子について、説明を行った。抗菌薬を沢山使ったからといって出てくる耐性ではなく、プラスミドによって移っていく耐性である。また、この遺伝子をもったMRSAはアウトブレイクを起こすリスクが高い。ヨーロッパや南米で、耐性遺伝子が次々移ったことにより、アウトブレイクを起こしたという報告がある。日本では、まだ、報告されていないが、監視は必要である。新しいオキサゾリジノン系の抗菌薬が既に発売されている。リネゾリドだけの適正使用や耐性を監視するのではなく、オキサゾリジノン系の抗菌薬全体の適正使用、耐性の問題を監視していくことが我々の務めである。リネゾリド研究会を、オキサゾリジノン研究会に改名してはどうかと提案された。厚労省医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課 担当官より、関係会社が承知したなら、折をみて、話をすると回答があった。会則の変更について、事務局長に問われ、研究会参加企業の合意を得られたら、検討すると回答された。

最後に、厚生労働省 医薬・生活衛生局 医薬品審査管理課 担当官より、世界的にもAMRの関

係が注目されているため、サーベイランスの継続、トレンドの把握は重要であり、産官学の下で、取り組みが行われていることは、心強いと講評された。

リネゾリド研究会打合せが、2019年3月14日に日内会館で行われ、①適正リーフレットの内容の見直し、かつ、存在自体の見直し ②今後のサーベイランスについて（VREの調査について、MRSAの調査について） ③リネゾリド研究会からオキサゾリジノン系研究会への改名について、話し合われたが、時間が足りず、継続して検討することとした。

Ⅲ. 収益事業

賃貸事業

本協会の建物のうち1階を一般財団法人機能水研究振興財団に、3階を特定非営利活動法人バイオメディカルサイエンス研究会に、5階を株式会社ニムラ・ジェネティック・ソリューションズに賃貸している。また、4階会議室については、会議室として貸し出し可能である旨をホームページ上に掲載し、希望がある時に、随時、貸し出している。

Ⅳ. 管理

1. 理事会及び評議員会

第24回理事会	2018年 5月 15日	[コンパスオフィス Oak2&3]
第8回評議員会	2018年 6月 5日	[本協会会議室]
第25回理事会	2018年 10月18日	[本協会会議室]
第26回理事会	2019年 3月 18日	[本協会会議室]

2. その他

本協会ホームページを主な媒体として広く、本協会の活動について啓発、広報を行った。

Ⅴ. 物故役員等

元評議員	小松 信彦先生	(2018年5月 1日)
顧問	森岡 茂夫先生	(2018年6月 4日)
元評議員、JA Emeritus	新田 和男先生	(2018年6月 26日)
元評議員	小山 泰正先生	(2018年9月 10日)
元監事	菊地 幸雄先生	(2018年10月 27日)
顧問、JJA 名誉編集委員長	山口 恵三先生	(2019年 1月 7日)
学術委員	熊澤 浄一先生	(2019年 3月 19日)

VI. 特別会員

旭化成ファーマ株式会社
アステラス製薬株式会社
栄研化学株式会社
エーザイ株式会社
MSD 株式会社
大塚製薬株式会社
株式会社大塚製薬工場
科研製薬株式会社
キリン株式会社
杏林製薬株式会社
共和クリティケア株式会社
協和発酵キリン株式会社
共和薬品工業株式会社
小林化工株式会社
サノフィ株式会社
沢井製薬株式会社
参天製薬株式会社
サンド株式会社
塩野義製薬株式会社
シオノケミカル株式会社
ジャパンワクチン株式会社

第一三共株式会社
大興製薬株式会社
大正製薬株式会社
大日本住友製薬株式会社
大鵬薬品工業株式会社
武田テバファーマ株式会社
武田薬品工業株式会社
田辺三菱製薬株式会社
中外製薬株式会社
東和薬品株式会社
日医工株式会社
一般社団法人日本血液製剤機構
光製薬株式会社
ファイザー株式会社
富士フィルム富山化学株式会社
株式会社ポーラファルマ
マイラン製薬株式会社
マルホ株式会社
ミヤリサン製薬株式会社
Meiji Seika ファルマ株式会社
ヤンセンファーマ株式会社

[以上 42 社]

VII. 月曜会委員

旭化成ファーマ株式会社 (山路真也・岸田三一)	大日本住友製薬株式会社* (若村友太郎)
アステラス製薬株式会社 (加藤研一・三木隆司)	武田薬品工業株式会社 (狩野宗英)
科研製薬株式会社 (村上 覚)	田辺三菱製薬株式会社 (菅生和正・米岡一樹・増渕 聡)
協和発酵キリン株式会社 (松田泰周)	富山化学工業株式会社** (地曳康訓・藤巻一雄)
塩野義製薬株式会社 (吉田博之・有安まり)	ファイザー株式会社 (長島正人・中島慶太郎)
第一三共株式会社 (南谷進市・大江慶司)	Meiji Seika ファルマ株式会社 (近藤賢一郎・上薮智史)
大正製薬株式会社 (塚原勝則・杉山寛行)	ヤンセンファーマ株式会社 (佐々木一尋・中山慶一・甲谷 茂)

[構成会社 14 社 (委員名) ; *幹事会社、**副幹事会社]

*月曜会 抗微生物薬等審査報告書 DB 作成分科会委員

大江慶司 (第一三共株式会社)
地曳康訓 (富山化学工業株式会社)
佐々木一尋 (ヤンセンファーマ株式会社)

VIII. バンコマイシン研究会

小林化工株式会社 (安藤清秀・木戸陽子)	日医工株式会社 (土藏嘉菜・千種康恵)
沢井製薬株式会社 (浅田英文)	光製薬株式会社 (石井成佳)
サンド株式会社 (稲澤 浩)	ファイザー株式会社 (大島純一)
武田テバファーマ株式会社 (橋本和恵)	マイラン製薬株式会社 (藤本隆則)
東和薬品株式会社 (打越 舞)	Meiji Seika ファルマ株式会社* (片岡裕史)

[構成会社 10 社 (委員名) ; *幹事会社]

IX. リネゾリド研究会

共和クリティケア株式会社 (渡辺 昇)	日医工株式会社 (土藏嘉菜・千種康恵)
共和薬品工業株式会社 (篠原雅史)	光製薬株式会社 (石井成佳)
沢井製薬株式会社 (吉川大輔)	ファイザー株式会社* (今井啓之)
シオノケミカル株式会社 (小宮淳史)	Meiji Seika ファルマ株式会社 (片岡裕史)
大興製薬株式会社 (加藤健郎)	

[構成会社 9 社 (委員名) ; *幹事会社]

X. Friends of the Journal (国内外法人)

旭化成ファーマ株式会社

Asahi Kasei Pharma Corporation

科研製薬株式会社

KAKEN PHARMACEUTICAL CO., LTD.

杏林製薬株式会社

KYORIN Pharmaceutical Co., Ltd.

大正製薬株式会社

Taisho Pharmaceutical Co., Ltd.

日本マイクロバイオファーマ株式会社

MicroBiopharm Japan Co., Ltd.

富士フィルム富山化学株式会社

FUJIFILM Toyama Chemical Co., Ltd.

Meiji Seika ファルマ株式会社

Meiji Seika Pharma Co., Ltd.

[以上 7 法人]

事業報告の附属明細書

1. 普及啓発

(1) 機関誌及び刊行物

① The Journal of Antibiotics

合計 119論文 820頁
インパクトファクター2017: 2.033

Vol. 71, No. 4	9論文	68頁
Vol. 71, No. 5	9論文	72頁
Vol. 71, No. 6	9論文	62頁
Vol. 71, No. 7	11論文	66頁
Vol. 71, No. 8	11論文	78頁
Vol. 71, No. 9	10論文	72頁
Vol. 71, No. 10	11論文	76頁
Vol. 71, No. 11	9論文	64頁
Vol. 71, No. 12	11論文	74頁
Vol. 72, No. 1	8論文	70頁
Vol. 72, No. 2	10論文	54頁
Vol. 72, No. 3	11論文	64頁

② The Japanese Journal of Antibiotics

合計 28論文 404頁

Vol. 71, No. 2	4論文	50頁
Vol. 71, No. 3	3論文	32頁
Vol. 71, No. 4	3論文	52頁
Vol. 71, No. 5	5論文	78頁
Vol. 71, No. 6	5論文	102頁
Vol. 72, No. 1	8論文	90頁